

第**125**期 報告書

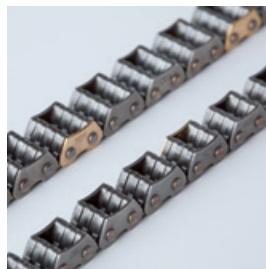
平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

四輪車用

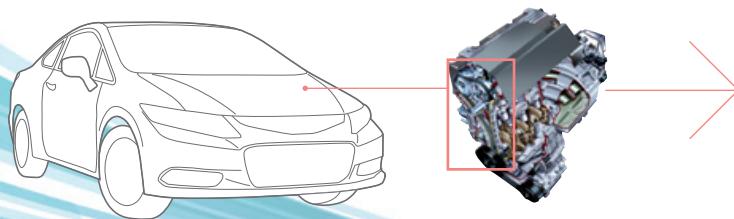
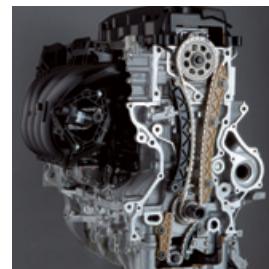
当社独自の特殊表面処理技術で、優れた耐摩耗性・疲れ強さ・高い静音性を実現した四輪車エンジン内チェーン。

[主な納入先] HONDA、TOYOTA、DAIHATSU、MAZDA、SUBARU、SUZUKI、HYUNDAI、第一汽車

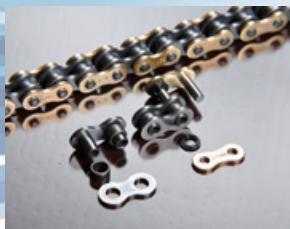
■ タイミングチェーン



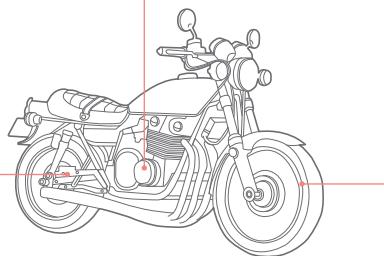
■ チェーンシステム



■ ドライブチェーン



■ カムチェーン



D.I.D

モノづくりへの情熱で世界

■ 鉄リム



■ アルミリム



二輪車用

[D.I.D] ブランドの高い信頼性と実績により、世界No.1の評価をいただく二輪車用チェーンは、多くの完成車メーカーに純正品として採用いただいております。

[主な納入先] HONDA、YAMAHA、SUZUKI、KAWASAKI、BMW、DUCATI、HARLEY-DAVIDSON

高度化・多様化するニーズに、コンサルティング能力と開発力、固有技術で、お客様の環境に合わせたソリューションを提供しています。

動力伝動・搬送用チェーン



[主な使用用途]

- ・立体駐車場
- ・フォークリフト
- ・建設機械・農業機械
- ・食品加工機械
- ・印刷機械・包装機械

産業機械用チェーン (静音チェーン)



コンベヤシステム

粉粒体・環境関連設備向け エプロンバケットコンベヤ



製鉄関連設備向け コイルコンベヤ



事業領域

に感動をお届けするヒューマンテクノロジー

私たちは創業以来、「伝える」「運ぶ」をテーマに、世界のニーズを満たす技術の徹底追求を行い、高性能、高品質な製品をお届けしてきました。

その根底には、人にふれあう技術、人とともに伸びる技術という思想が貫かれています。

ものづくりは人づくり、そして情熱。私たち大同工業グループは、絶えず人と技術を原点に置き、ひたむきに「D.I.D」ブランドへの期待と信頼にお応えしています。

いす式階段昇降機 (楽ちん号)



車いす用階段昇降機 (JDエスカル)



福祉機器

豊かで快適な福祉社会を実現するため、使う人の立場に立ったユニバーサルデザインに基づく福祉機器の開発を通じて、バリアフリー社会に貢献しています。



ごあいさつ

平素は格別のご高配を賜りありがたく厚くお礼申し上げます。

第125期事業年度（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）の営業が終了いたしましたので、報告書をお届けし、ご報告申し上げます。

平成30年6月

代表取締役社長 新家 康三

事業の経過及び成果

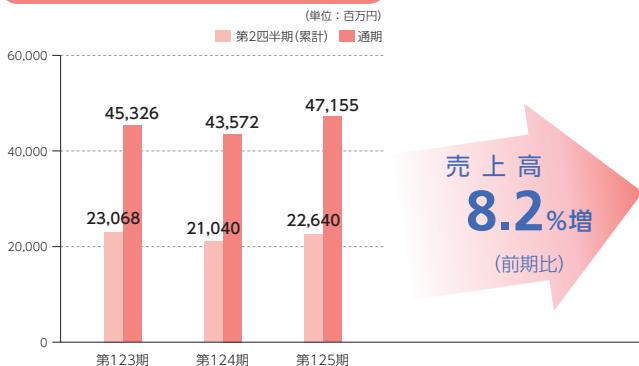
当期における当社グループを取り巻く環境は、海外においては、米国政権の政策運営や東アジア情勢など不透明な状況が続いたものの、米国や欧州をはじめとして、世界経済は総じて回復基調で推移しました。国内においても、個人消費の持ち直しや企業業績の改善が進み、緩やかな回復基調が続きました。

このような状況のもと、当社グループにおきましては、

フィリピン及びマレーシアにおける現地法人の設立や米国子会社における一貫生産の開始等、海外拠点の強化を進め、グローバルな生産活動と拡販活動を積極的に展開してまいりました。国内においても株式会社スギムラ精工との業務及び資本提携を行い、事業領域の拡大に努めてまいりました。

収益面につきましては、生産効率の改善やコスト削減に努めたものの、経営環境の変化等の影響を受け継続して営業損

売上高



営業利益



益の悪化となっている連結子会社の一部の固定資産（設備機械等）について特別損失として減損損失を計上いたしました。

その結果、当期の連結売上高は471億55百万円（前期比8.2%増）、連結営業利益は29億12百万円（前期比12.9%増）、連結経常利益は32億5百万円（前期比2.3%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は14億15百万円（前期比22.0%減）となりました。

対処すべき課題

今後の見通しにつきましては、米国経済の底堅い成長や、欧州における景気拡大を背景に全体として堅調な成長が見

込まれますが、各国の金融政策の不確実性による影響や中国を始めアジア新興国等の経済の先行き等、引き続き予断を許さない状況が続くと予想されます。

本年、当社は『切り拓こう たゆまぬ挑戦で 未来を！』をスローガンとする第11次中期経営計画（2018～2020年）の初年度となります。ものづくり企業としての原点に立ち返り、既存商品の競争力を徹底的に磨き上げながら事業と技術領域の拡大に向けて挑戦を続け、多様な人材を育成し活用することで、今後も発展を続けてまいります。

株主の皆様におかれましては、より一層のご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

第126期（平成31年3月期）連結業績予想

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
第2四半期（累計）	24,500	1,500	1,600	900
通期	49,400	3,200	3,400	2,100

経常利益



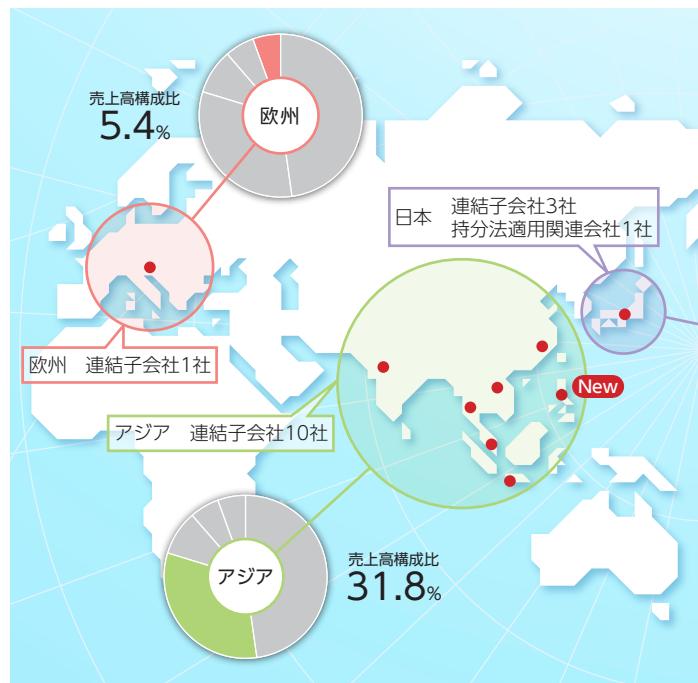
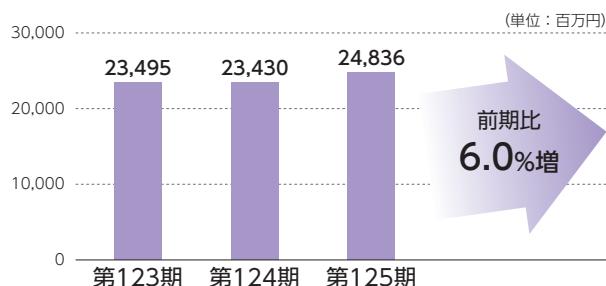
親会社株主に帰属する当期純利益



所在地別セグメント（当社及び連結子会社の属する国または地域を基準としたもの）

● 日 本

前期において熊本地震の影響などにより、完成車メーカー向け二輪車用チェーン、アルミリムの受注が低調であったものの、前期の後半より受注が回復基調となるとともに、二輪車用アルミリムにおいては、新機種の受注を獲得できたこと、二輪車用チェーンにおいては欧州市場向けの付加価値の高いチェーンの受注が好調であったこと、さらに産業機械用チェーンにおいても高付加価値品の受注が好調に推移したことから、売上高は248億36百万円となりました。



● ご参考 ●

仕向地別セグメント

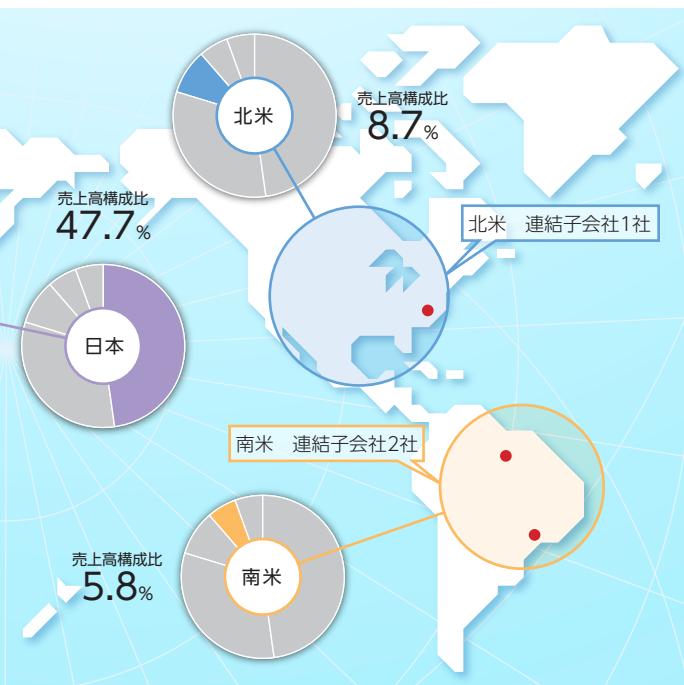
(顧客の属する国または地域を基準としたもの)

	売上高 (百万円)	構成比 (%)	前期比
日 本	22,489	47.7	7.2%増
ア ジ ア	15,013	31.8	15.3%増
北 米	4,098	8.7	10.1%減
南 米	2,744	5.8	19.5%増
欧 州	2,543	5.4	6.1%増
そ の 他	265	0.6	19.3%減

● 欧 州

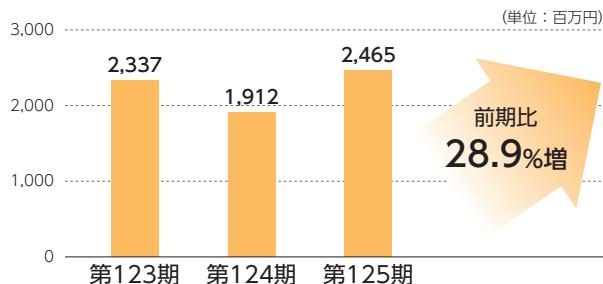
完成車メーカー向けの二輪車用チェーン及びアルミリムの受注が堅調に推移するとともに、補修市場向けにおいてもドイツ向けの販売を中心に付加価値の高い二輪車用チェーンの受注が好調に推移したことから、売上高は18億44百万円となりました。





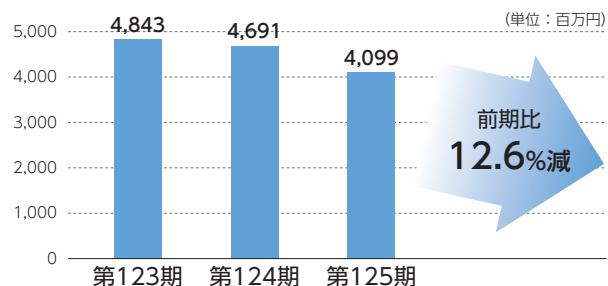
● 南米

産業用・農業用チェーンやコンベヤの受注が好調に推移するとともに、二輪車用チェーンにおいて完成車メーカー向けの受注が好調に推移したことから、売上高は24億65百万円となりました。



● 北米

四輪車用チェーンにおいて、前期の新規の立ち上げ後の一服感もあり、売上高は40億99百万円となりました。



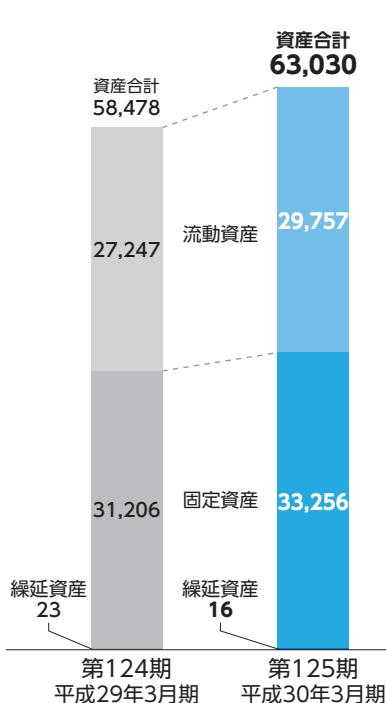
● アジア

中国において、日系自動車メーカーの増産を背景に四輪車用チェーンの受注が好調に推移したことに加えて、アセアン諸国において完成車メーカー向けの二輪車用チェーンの受注が好調に推移したことから、売上高は139億9百万円となりました。



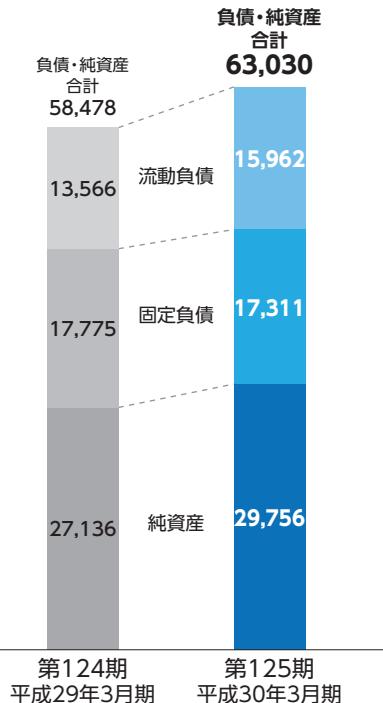
資産の部

単位：百万円



負債及び純資産の部

単位：百万円

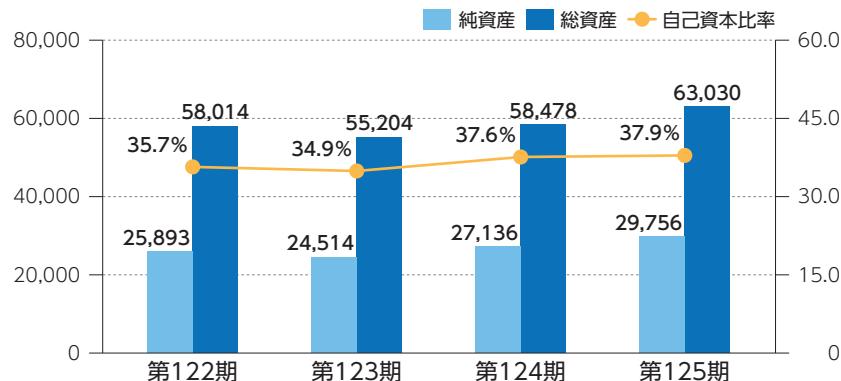


ポイント解説

総資産は、現金及び預金、受取手形及び売掛金、たな卸資産、有形固定資産、投資有価証券が増加したことなどにより、前期末と比べ45億52百万円増加しました。負債につきましては、有利子負債が減少したものの、支払手形及び買掛金、未払法人税等が増加したことなどにより、前期末と比べ19億32百万円増加しました。純資産は、利益剰余金、その他有価証券評価差額金、非支配株主持分が増加したことなどにより、前期末と比べ26億20百万円増加しました。

純資産・総資産・自己資本比率

単位：百万円

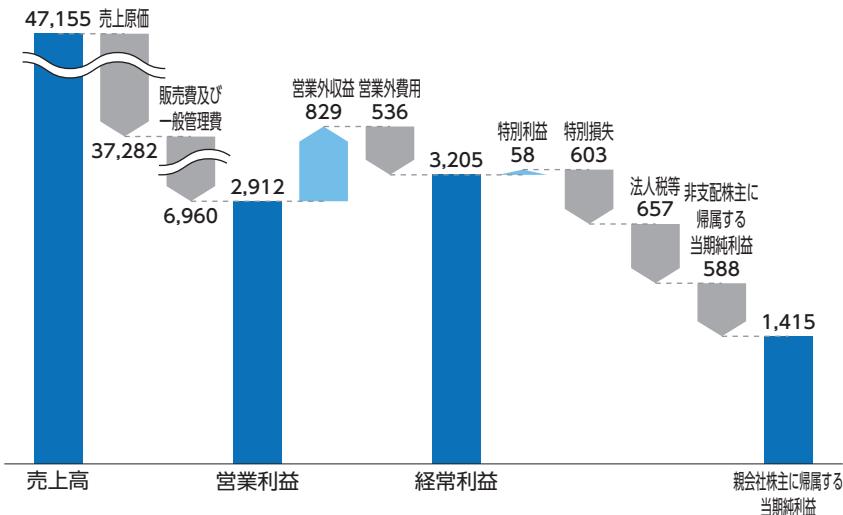


ポイント解説

自己資本比率は、支払手形及び買掛金、未払法人税等の増加により負債が増加したものの、利益剰余金、その他有価証券評価差額金、非支配株主持分の増加などによる純資産の増加により、前期末と比べ0.3ポイント増加の37.9%となりました。

● 損益の状況 (平成29年4月1日～平成30年3月31日)

単位：百万円



● ポイント解説

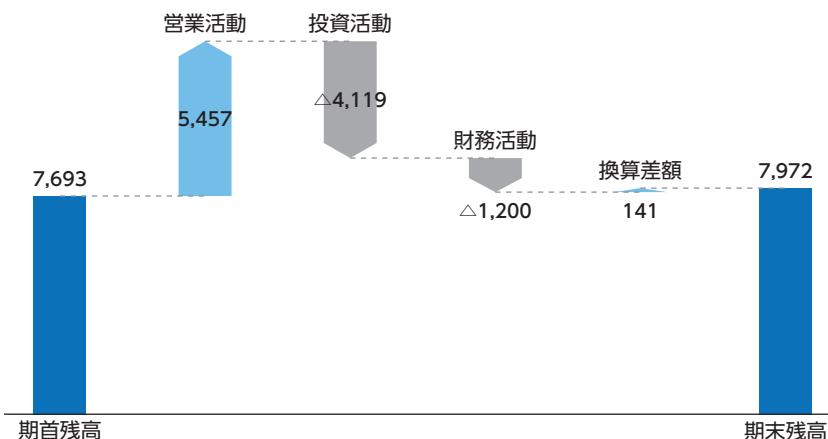
売上面では、欧州、アセアン諸国や南米において完成車メーカー向けの二輪車用チェーンの受注が好調に推移し、国内においても二輪車用アルミリムにおいて新機種の受注獲得ができたことや、付加価値の高い二輪車用チェーンの受注が好調に推移した結果、前期を上回りました。収益面では、生産効率の改善やコスト削減に努めたものの、為替差損を計上したことや、経営環境の変化等を受け継続して営業損益の悪化となっている連結子会社の一部の固定資産について特別損失として減損損失を計上したことにより、前期を下回りました。

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
第125期 平成30年3月期	47,155	2,912	3,205	1,415
第124期 平成29年3月期	43,572	2,578	3,279	1,814

● キャッシュ・フローの状況 (平成29年4月1日～平成30年3月31日)

単位：百万円



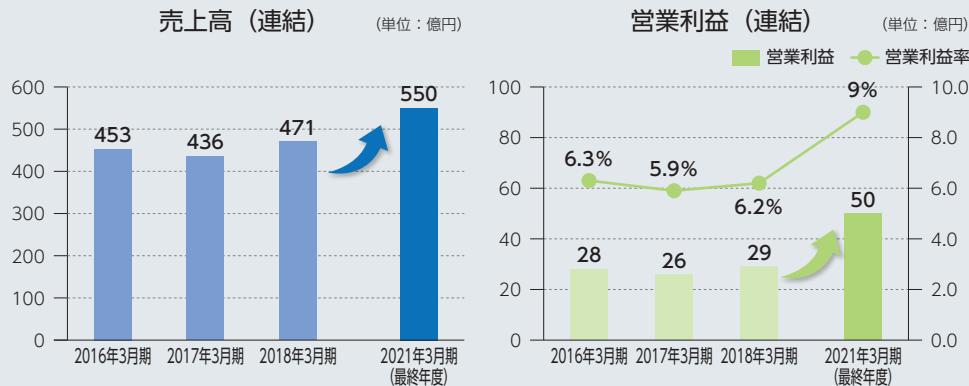
● ポイント解説

営業活動によるキャッシュ・フローは、売上債権及びたな卸資産が増加したものの、税金等調整前当期純利益、減価償却費を計上し、仕入債務が増加した結果、54億57百万円の獲得となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、定期預金の預入や有形固定資産の取得による支出などにより、41億19百万円の使用、財務活動によるキャッシュ・フローは、借入の返済による支出、配当金の支払などにより、12億円の使用となりました。

第11次中期経営計画を発表

2021年3月期 (最終年度目標値)	
売上高	550億円
営業利益	50億円
営業利益率	9%
自己資本利益率 (ROE)	10%

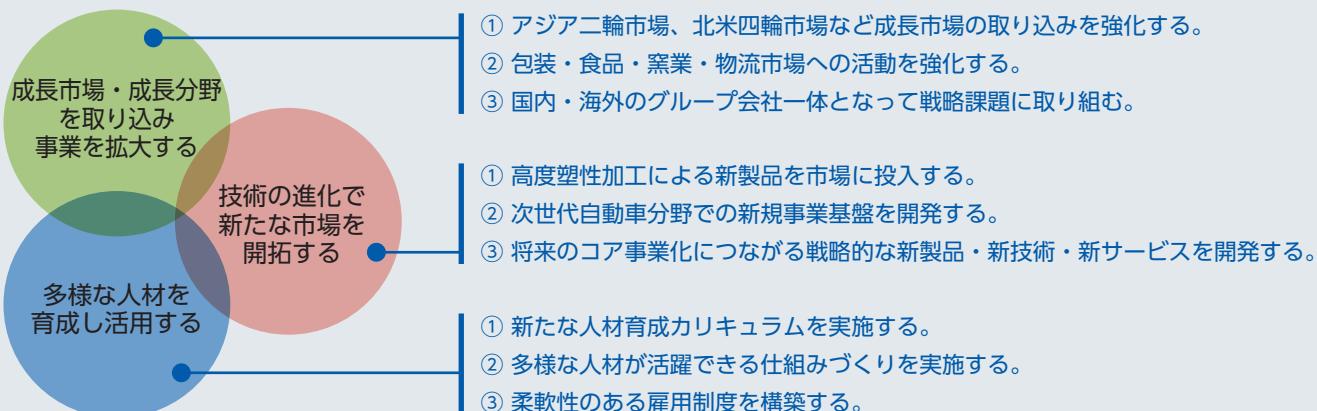


当社は、2019年3月期から2021年3月期を対象とする第11次中期経営計画（以下、中計）を発表いたしました。第11次中計では、第10次中計からの継続性を重視するとともに、長期を見据えての計画立案を推進いたしました。

当社は、第11次中計において、“切り拓こう たゆまめ挑戦で 未来を！”を経営スローガンに、

- ①成長市場・成長分野を取り込み事業を拡大する。
- ②技術の進化で新たな市場を開拓する。
- ③多様な人材を育成し、活用する。

の3点を会社方針として、2021年3月期（最終年度）売上高550億円、営業利益50億円（営業利益率9%）、自己資本利益率10%を目標に事業展開を進めてまいります。



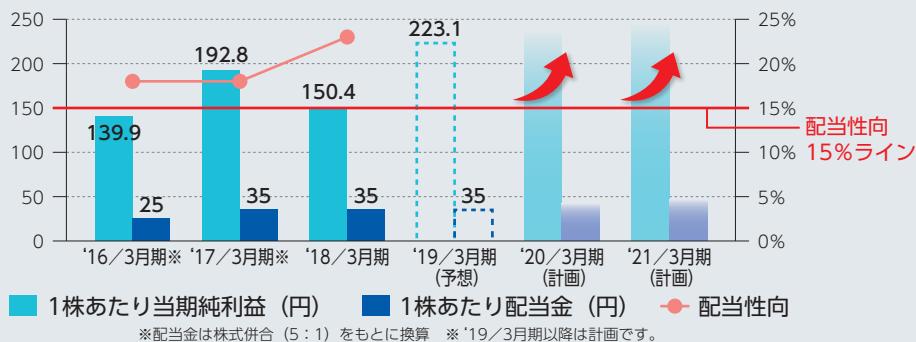
本経営スローガンと会社方針は、第10次中計のコンセプトを踏襲したものであり、各事業部において第10次中計の課題に引き続き取り組むとともに、次の第12次中計も見据えた目標を設定しております。

<各事業における取り組み>

四輪事業	タイミングチェーン“システム”メーカーとして、受注獲得・売上拡大 世界で勝てる価格の構築 生産・供給・販売体制をグローバルで強化
二輪事業	利益を創出できるグローバル体制と事業体質の改革 補修市場での新規市場開拓と既存市場での商流整合、販売拠点の設立・強化 チェーン・アルミリムの生産能力確保と管理システムの構築
産機事業	毎期10%以上の高機能・高付加価値・開発商品の販売拡大 既存市場のメンテナンス需要の取り込み コンペヤ既存商品の維持拡大と新商品で新たな事業領域を拡大
開発	2023年までに新規事業立ち上げ、2033年（創立100周年）までにコア事業化 協業を視野に入れ、スピーディな新規事業立ち上げ 既存事業のコア技術に関する基礎まで掘り下げた研究開発を継続
技術	高度塑性加工品を国内・海外自動車メーカーへ納入 生産性向上のための国内3工場の工場再配置
その他	多種多様な働き方の構築、新たな人材育成カリキュラムの実施 ICT活用による基幹システムの新化と再構築

また、第11次中計においては、株主の皆様への利益還元を経営上の重要政策と位置付けております。

安定した配当の維持を基本とし、通期の業績、経営環境並びに中長期的な財務体質の強化等を総合的に勘案して配当を行う方針であり、本中期経営計画期間中の配当性向（連結）を15%以上とし、一株当たり配当金の継続的な拡大を目指します。



会社の概況 (平成30年3月31日現在)

商号	大同工業株式会社
設立年月日	昭和8年5月25日
資本金	27億2,637万円
従業員	665名(個別) 2,186名(連結)

(注) 上記従業員数は就業人員であり、臨時雇用者(定年後再雇用社員、派遣社員等)は含んでおりません。

事業所 (平成30年6月26日現在)

本社・本工場	石川県加賀市熊坂町イ197番地
福田工場	石川県加賀市大聖寺下福田町ソ20
動橋工場	石川県加賀市動橋町中22-1
東京支社	東京都中央区日本橋人形町3-5-4 (ユニゾ人形町三丁目ビル)
札幌営業所	札幌市東区北18条東18-1-3
栃木営業所	宇都宮市東宿郷4-2-20 (KDビル)
浜松営業所	浜松市北区三方原町1130-2
名古屋営業所	名古屋市中村区名駅南4-9-7
大阪営業所	大阪市中央区南船場2-12-12 (新家ビル)
西日本営業所	福岡市博多区博多駅南1-3-6 (第三博多借成ビル)
熊本営業所	熊本県菊池市旭志川辺1074-1

グローバルネットワーク (平成30年6月26日現在)

国内ネットワーク

- 株式会社大同ゼネラルサービス
- 株式会社大同テクノ
- ガイド建設株式会社
- 新星工業株式会社
- 株式会社月星製作所
- 株式会社和泉商行

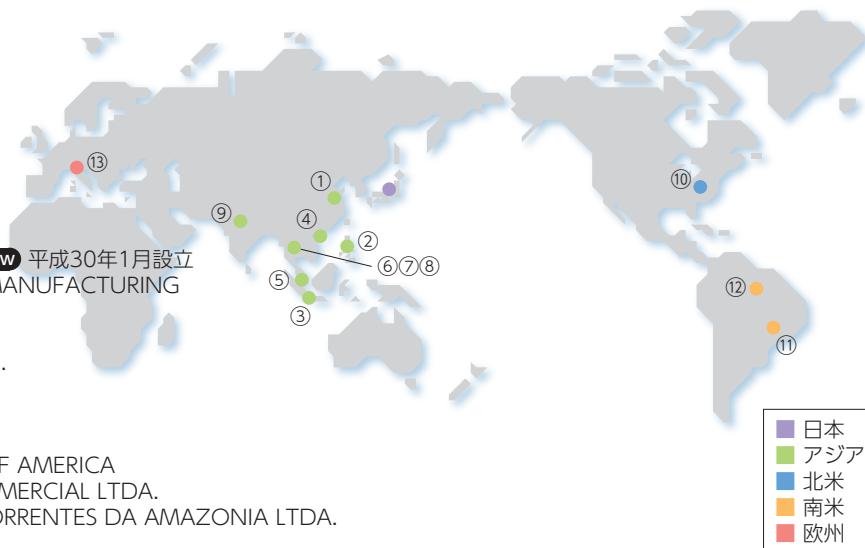
海外ネットワーク

- 中国 ① 大同鏈条(常熟)有限公司
- フィリピン ② D.I.D PHILIPPINES INC. **New** 平成30年1月設立
- インドネシア ③ P.T. DAIDO INDONESIA MANUFACTURING
- ベトナム ④ D.I.D VIETNAM CO., LTD.
- マレーシア ⑤ DID MALAYSIA SDN. BHD.
- タイ ⑥ DAIDO SITTIPOL CO., LTD.
- タイ ⑦ D.I.D ASIA CO., LTD.
- タイ ⑧ INTERFACE グループ (3社)
- インド ⑨ DAIDO INDIA PVT. LTD.
- アメリカ ⑩ DAIDO CORPORATION OF AMERICA
- ブラジル ⑪ DAIDO INDUSTRIAL E COMERCIAL LTDA.
- ブラジル ⑫ DAIDO INDUSTRIA DE CORRENTES DA AMAZONIA LTDA.
- イタリア ⑬ DID EUROPE S.R.L.

会社役員の内訳 (平成30年6月26日現在)

会社における地位	氏名
代表取締役社長	新家康三
代表取締役副社長	新家啓史
専務取締役	立田康行
常務取締役	菊知克幸
常務取締役	清水俊弘
取締役	澤保
取締役	棚橋健一
常勤監査役	福田治
監査役	笠松靖男
監査役	東森正則
監査役	廣田信也

- (注) 1. 取締役澤保氏、棚橋健一氏は社外取締役であります。
 2. 監査役笠松靖男氏、東森正則氏、廣田信也氏は社外監査役であります。
 3. 当社は、澤保氏、棚橋健一氏、廣田信也氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届出ております。



株式の状況

発行可能株式総数：32,000,000株

発行済株式総数：9,434,201株 (自己株式11,146株含む)

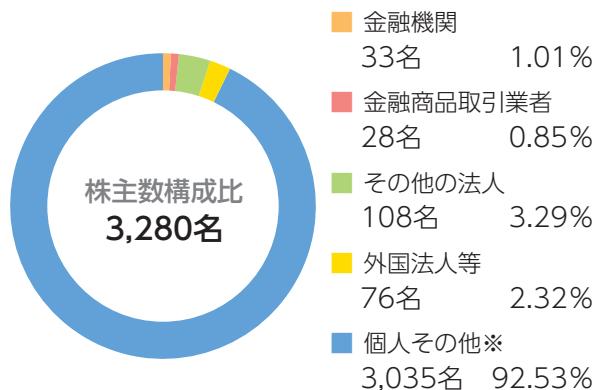
株主数：3,280名

大株主 (上位10名)

株主氏名及び名称	持株数	持株比率
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	518千株	5.50%
株式会社 飯田	475	5.05
株式会社 北國銀行	456	4.84
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	313	3.32
日本生命保険相互会社	275	2.92
加賀商工有限会社	262	2.79
大同生命保険株式会社	259	2.75
株式会社 みずほ銀行	258	2.74
株式会社 三菱東京UFJ銀行	258	2.74
新家 萬里子	257	2.73

- (注) 1. 持株比率は、自己株式を控除して計算しております。
 2. 平成29年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。
 3. 株式会社三菱東京UFJ銀行は、平成30年4月1日に銀行名を株式会社三菱UFJ銀行に変更いたしました。

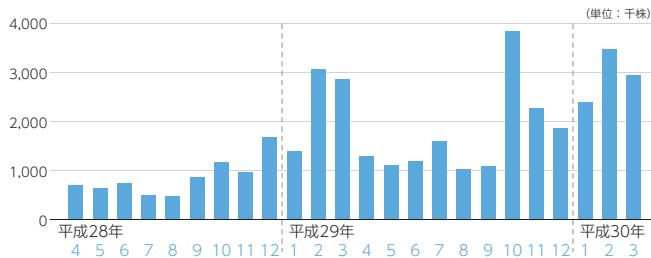
株式分布状況



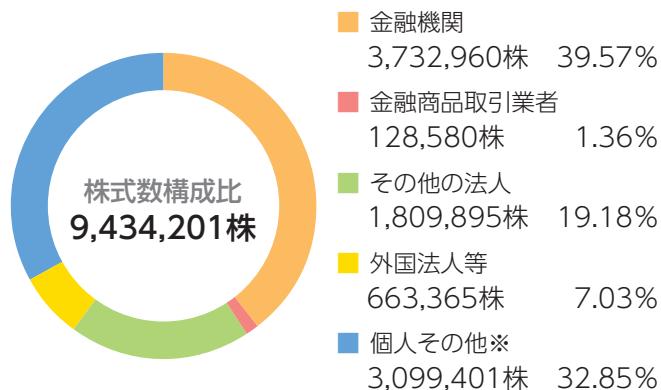
株価(高値・安値)の推移



出来高の推移



- ※1 平成29年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。
 ※2 平成29年9月以前の株価については、株式併合後に換算して記載しております。



※ 個人その他には、政府・地方公共団体及び自己名義株式を含む。

平成30年
3月

第34回 大阪モーターサイクルショー 第45回 東京モーターサイクルショー に出展

場所：インテックス大阪／東京ビッグサイト

平成30年3月16日～3月18日に開催された大阪モーターサイクルショー及び3月23日～25日に開催された東京モーターサイクルショーに当社ブースを出展いたしました。本年度は総来場者数が、大阪会場では過去最高の70,664人、東京会場も総来場者数146,823人を記録するなど、国内最大級のオートバイイベントとして両会場とも大盛況となりました。当社のブースにも多くのお客様が訪れ、カタログを1万部以上配布するなど、大々的なPRを行うことができました。

両会場では、新商品のチェーン（DID250ERT3、ERS3）や、国内市場では初の試みとなるチェーンとスプロケットをセットにした交換用キットを展示し、当社製品の品質や性能をアピールするとともに、1,000人あまりのお客様にアンケートにご協力頂いたことで、お客様の動向や意識について、貴重な情報を頂くことが出来ました。

頂いたご意見や情報をもとに、顧客満足度を高められるよう努めてまいります。



▲東京モーターサイクルショー 当社ブースの様子

平成30年
3月

第11次中期経営計画説明会を開催

場所：グラントウキョウノースタワー

平成30年3月29日に、東京にて当社の第11次中期経営計画説明会を開催いたしました。本説明会には、首都圏を拠点とする合計40人の機関投資家・アナリストの皆様にご参加いただき、当社経営陣より中期経営計画のコンセプトや目標、各事業の取り組みについて説明し、当社への理解を深めて頂きました。

また、質疑応答の時間には、活発な意見交換がなされ、多くのご意見やご要望を頂戴することができました。

今後も機関投資家、個人投資家を問わず、株主の皆様との対話の機会を設けることで、当社への理解を深めて頂ける様、積極的なIR活動を推進してまいります。



▲中期経営計画説明会の様子

株式のご案内

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで	
定時株主総会	毎年6月開催	
単元株式数	100株	
単元未満株式の 買取制度	1単元 (100株)	単元未満株式 (1から99株)
基準日	定時株主総会 3月31日	剰余金の配当 期末 3月31日 中間 9月30日
	そのほか必要があるときは、あらかじめ 公告して定めた日	
株主名簿管理人 (特別口座の口座管理機関)	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社	
株主名簿管理人 事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部	
(郵便物送付先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部	
(電話照会先)	☎ 0120-782-031	
(インターネットHP URL)	http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html	
公告の方法	当社ホームページに掲載(電子公告) http://www.did-daido.co.jp/jp/index.html	
上場取引所	東京証券取引所市場第一部	
証券コード	6373	

お知らせ (株式事務のご案内)

■ 各種手続き・ご照会について

株主様の各種お手続きは、原則として口座を開設されている証券会社経由で行っていただくこととなります。住所、氏名の後変更、配当金受取方法のご指定、単元未満株式の買取請求などのお手続きに関するお問い合わせ、お手続きに必要な書類のご請求等は、口座を開設されている証券会社までご連絡ください。

■ 特別口座について

株券電子化の実施までに証券保管振替制度をご利用されなかった株式につきましては、株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社に開設された特別口座に記録されております。特別口座で管理されている株式についてのお手続きに関するお問い合わせ、お手続きに必要な書類のご請求等は特別口座管理機関である三井住友信託銀行までご連絡ください。なお、三井住友信託銀行の全国本支店でもお取次いたします。

■ 単元未満株式の買取制度について

当社では証券市場における取引単位を1単元(100株)とさせていただいておりますので、単元未満株式(1から99株)の株式は証券市場でのお取引ができません。当社単元未満株式の買い取りをご希望される株主様は、お取引のある証券会社(特別口座が開設されている株主様は、三井住友信託銀行)までお問い合わせください。なお、買取請求に関する手数料は無料となっております。

■ 未受領の配当金について

未受領の配当金につきましては、三井住友信託銀行の全国本支店でお支払いいたします。

ホームページのご案内

<http://www.did-daido.co.jp/>



投資家の皆様に財務情報や最新トピックスをご提供しております。



より詳細な財務情報をご希望の方は、
当社ホームページ [投資家向け情報] をご覧ください。

大同工業 投資家向け情報

検索

<http://www.did-daido.co.jp/jp/ir/index.html>

株主様向け
アンケート

株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、
アクセスコード入力後に表示される
アンケートサイトにてご回答ください。
所要時間は5分程度です。

 <http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 6373

いいかぶ

検索



空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。



携帯電話からもアクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使い
の方は、右のQRコードからもアクセスできます。



●アンケート実施期間は、本書がお手元に
到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から
抽選で薄謝(図書カード500円)
を進呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社 a2media(エー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。
(株式会社 a2mediaについての詳細<http://www.a2media.co.jp>)
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ TEL:03-5777-3900(平日 10:00~17:30)
[e-株主リサーチ事務局] MAIL:info@e-kabunushi.com

